

# リカバリガイド

このたびは弊社の製品をご購入いただき、誠にありがとうございます。

## 目次

本書をお読みになる前に .....	2
1. 必要に応じてお読みください .....	4
ハードディスク構成 .....	4
ディスク作成 (Windows 7/Windows XP の場合) .....	6
リカバリ .....	9
セットアップ .....	12
2. 補足情報 .....	15
領域設定の変更 .....	15
ハードディスクをご購入時の状態に戻す .....	18
リカバリ領域の削除 (Windows 7 の場合) .....	21
リカバリ領域の削除 (Windows XP/Windows Server 2008 の場合) .....	24

### 本書のバックアップについて

本書『リカバリガイド』は、ご購入時に C ドライブに格納されています。リカバリなどで C ドライブを削除した場合は、本書のデータも削除され、元に戻りません。事前にバックアップをすることをお勧めします。

このマニュアルは、改善のため変更することがあります。最新のマニュアルは、インターネット上のマニュアル (<http://www.fmworld.net/biz/fmv/support/fmvmanual>) からご覧ください。



# 本書をお読みになる前に

## 本書の表記

本書の内容は 2012 年 10 月現在のものです。お問い合わせ先や URL などの変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください。詳しくは、『取扱説明書』をご覧ください。

### ■本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 <b>重要</b>	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 <b>POINT</b>	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

### ■キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

### ■連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作  
↓  
「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

### ■本文中の表記と画面表示内容の相違

お使いの OS によって本文中の表記と画面表示内容が異なる場合があります。

例：「コンピューター」（Windows 7 の場合）、「コンピュータ」（Windows XP/Windows Sever 2008 の場合）

本書では Windows 7 の画面表示内容で表記しています。

### ■画面例およびイラストについて

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。

### ■本書に記載している仕様とお使いの機種との相違について

本文中の説明は、標準仕様に基づいて記載しています。

ご購入時の構成によっては、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

なお、本文内において、機種や OS 別の書き分けがある箇所については、お使いの機種の情報をお読みください。

### ■「ユーザーアカウント制御」ウィンドウについて

本書で説明している Windows の操作の途中で、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示される場合があります。これは、重要な操作や管理者の権限が必要な操作の前に Windows が表示しているものです。表示されるメッセージに従って操作してください。

## ■製品の呼び方

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記	
ESPRIMO N5280FA	本パソコン／パソコン本体	
Windows 7 Professional for Embedded Systems	Windows 7	Windows
Windows XP Professional for Embedded Systems	Windows XP	
Windows Server <sup>®</sup> 2008 for Embedded Systems Standard	Windows Server 2008	

## 商標および著作権について

---

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。  
その他の各製品は、各社の著作物です。  
その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

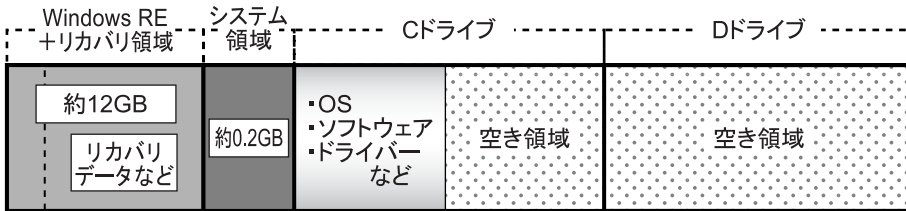
Copyright FUJITSU LIMITED 2011-2012

# 1. 必要に応じてお読みください

## ハードディスク構成

ハードディスクは、システムやリカバリデータなどが格納されている領域や、OS、ソフトウェアやデータなどを格納する C ドライブと D ドライブで構成されています。

### Windows 7 のハードディスク構成



#### POINT

- ▶ 「Windows RE + リカバリ領域」に約 12GB、「システム領域」に約 0.2GB 使用しているため、「コンピューター」に表示されるハードディスクの容量は、「本体仕様」の記載よりも約 12.2GB 少なく表示されます。
- ▶ 「Windows RE + リカバリ領域」と「システム領域」は、Windows からは見えない領域です。

「Windows RE + リカバリ領域」には、次のデータが格納されています。

#### ● 診断プログラム

Windows が正常に起動できない場合に本パソコンを診断します。

「診断プログラム」については、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。

#### ● トラブル解決ナビ

リカバリの実行やハードウェアなどの診断をするソフトウェアです。リカバリについては、「リカバリ」(→ P.9) をご覧ください。

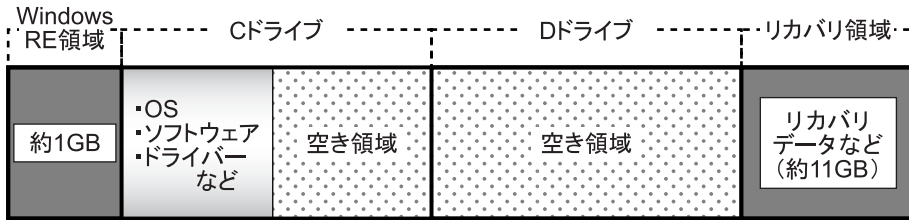
#### ● 「トラブル解決ナビ&ドライバズディスク [リカバリ起動ディスク]」のイメージ

本パソコンにトラブルが起こったときに使用する起動ディスクや、ソフトウェアのインストール、再インストールするときに使用するディスクのイメージです。

#### ● Windows 7 のリカバリデータ

本パソコンにトラブルが起こったときに C ドライブをご購入時に戻すときに使用します。

## Windows XP/Windows Server 2008 のハードディスク構成



### POINT

- ▶ 「Windows RE 領域」に約 1GB、「リカバリ領域」に約 11GB 使用しているため、「コンピュータ」に表示されるハードディスクの容量は、「本体仕様」の記載よりも約 12GB 少なく表示されます。
- ▶ 「Windows RE 領域」と「リカバリ領域」は、Windows からは見えない領域です。

「Windows RE 領域」には、次のデータが格納されています。

#### ● 診断プログラム

Windows が正常に起動できない場合に本パソコンを診断します。

「診断プログラム」については、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。

#### ● トラブル解決ナビ

リカバリの実行やハードウェアなどの診断をするソフトウェアです。リカバリについては、「リカバリ」(→ P.9) をご覧ください。

「リカバリ領域」には、次のデータが格納されています。

#### ● 「トラブル解決ナビ&ドライバズディスク [リカバリ起動ディスク]」のイメージ

本パソコンにトラブルが起こったときに使用する起動ディスクや、ソフトウェアのインストール、再インストールするときに使用するディスクのイメージです。

#### ● Windows XP または Windows Server 2008 のリカバリデータ

本パソコンにトラブルが起こったときに C ドライブをご購入時に戻すときに使用します。

## ディスク作成 (Windows 7/Windows XP の場合)

「Windows RE +リカバリ領域」または「リカバリ領域」にトラブルがあった場合、リカバリができなくなります。その場合に備えて、格納されているデータを DVD-R にコピーしておくで安心です。

### 重要

- ▶ 本パソコンには、リカバリディスクを添付しております。
- ▶ Windows Server 2008 の場合は、ディスク作成ができません。添付のリカバリディスクをお使いください。

## ディスク作成の考え方

本パソコンにトラブルがあった場合に備えて、またはご購入時にインストールされていないソフトウェアを使用する場合に、次のディスクが必要になります。

「Windows RE +リカバリ領域」または「リカバリ領域」に格納されているデータから、次のディスクを作成します。

### ●リカバリデータディスク

ハードディスクをご購入時の状態に戻す場合に使用します。また、「リカバリデータディスク」のリカバリデータを使って、Cドライブをリカバリすることもできます。

### ●トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]

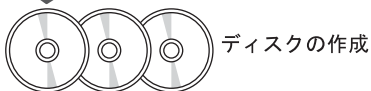
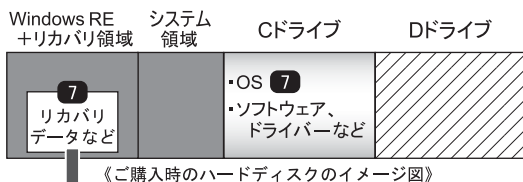
ソフトウェアやドライバをインストールする場合またはハードディスクをご購入時の状態に戻す場合に使用します。

領域設定を変更したり、リカバリ領域を削除したりする場合にも使用します。

### 重要

- ▶ ご購入時に添付されているすべてのソフトウェアやドライバは、富士通製品情報ページ内にある「ダウンロード」([http://www.fmworld.net/biz/fmv/index\\_down.html](http://www.fmworld.net/biz/fmv/index_down.html)) に公開されていません。  
添付のソフトウェアやドライバをインストールしたい場合は、「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]」を作成してください。

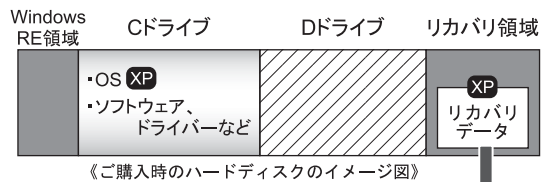
### ■Windows 7 の場合



ディスクの作成

- : Windowsからは見えない領域です。
- 7 : Windows 7

### ■Windows XP の場合



ディスクの作成

- : Windowsからは見えない領域です。
- XP : Windows XP

## ディスク作成前の準備

ディスクを作成する前に、次の準備を行ってください。

### ■型名を確認する

作成したディスクのレーベル面に記入します。あらかじめ、保証書などで本パソコンの型名を確認してください。

### ■ディスクを用意する

#### ●お使いになれるディスク

DVD-R (4.7GB) が必要です。その他のディスクはお使いになれません。

#### ●推奨ディスク

インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。

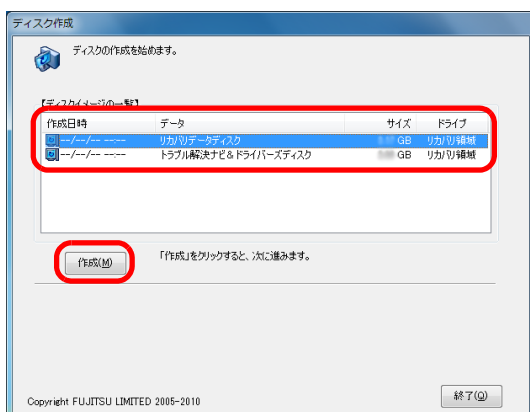
#### ●必要なディスクの枚数

必要なディスクの枚数は、「ディスクを作成する」の手順3 (→ P.7) で確認できます。

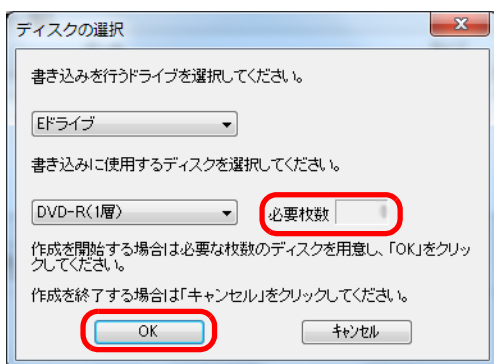
## ディスクを作成する

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ディスク作成」の順にクリックします。

2 作成したいディスクをクリックし、「作成」をクリックします。



3 ディスクの必要枚数を確認し、「OK」をクリックします。



「作成を開始しますか?」というメッセージが表示されます。

4 画面の指示に従って、未使用のディスクのレーベル面にディスクの名前と機種名（型名）を記入します。

 **POINT**

▶ レーベル面に記入するときは、ボールペンや鉛筆など、先の硬いものを使わないでください。ディスクに傷が付くおそれがあります。

5 手順4で名前を記入したディスクをセットします。

 **POINT**

▶ 「自動再生」ウィンドウが表示されたら、ウィンドウを閉じてください。

6 「はい」をクリックします。

ディスクへの書き込みが始まります。完了するまでしばらくお待ちください。

 **POINT**

▶ 「未使用のディスクをセットしてから「OK」をクリックしてください。」と表示された場合、未使用のディスクがセットされていることを確認し「OK」をクリックしてください。

7 「ディスクへの書き込みが終了しました」と表示されたら、「OK」をクリックします。

■ 複数枚のディスクを作成する場合

1枚目の書き込みが完了したら、続けて次のディスクを作成します。手順4～手順6を繰り返し、枚数分を作成してください。

 **POINT**

▶ 書き込みエラーが表示された場合

「ディスクの作成に失敗しました。」というメッセージが表示されたら、「OK」をクリックしてください。「ディスク作成」ウィンドウに戻ります。

ディスクの不良が考えられますので、新しいディスクを用意し、手順2から操作し直してください。なお、複数枚のディスクを作成している途中でエラーが出た場合は、途中から作成できます。

手順6で、作成し直したいディスクの枚数「n枚目」が表示されるまで「いいえ」をクリックして、ディスクの作成を続けてください。

8 「選択したディスクの作成が終了しました。」と表示されたら、ディスクを取り出し、「OK」をクリックします。

続けて他のディスクを作成する場合は、手順2に戻り、作成したいディスクの選択から行ってください。

9 「終了」をクリックします。

以上でディスクの作成は終了です。作成したディスクは、大切に保管してください。



# リカバリ

本パソコンのCドライブを、ご購入時の状態に戻すリカバリの方法を説明します。  
Windows が起動しないなどの問題が発生した場合、リカバリを行います。

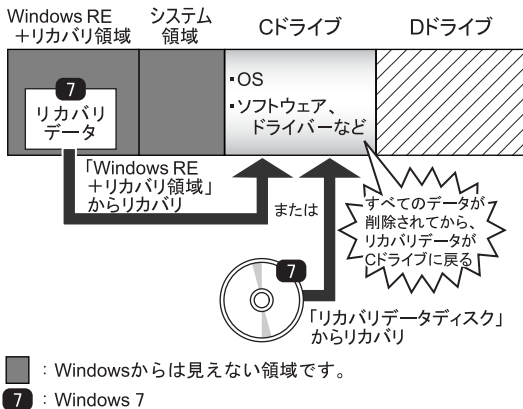
## 重要

- ▶ ハードディスクを保守交換した場合は、「ハードディスクをご購入時の状態に戻す」(→ P.18) をご覧になり、Cドライブのみではなく、ハードディスクのすべてのデータをご購入時の状態に戻してください。  
なお、OS やドライバーなどがインストールされた状態のハードディスクに交換した場合は、リカバリを行ったりハードディスクをご購入時の状態に戻したりする必要はありません。

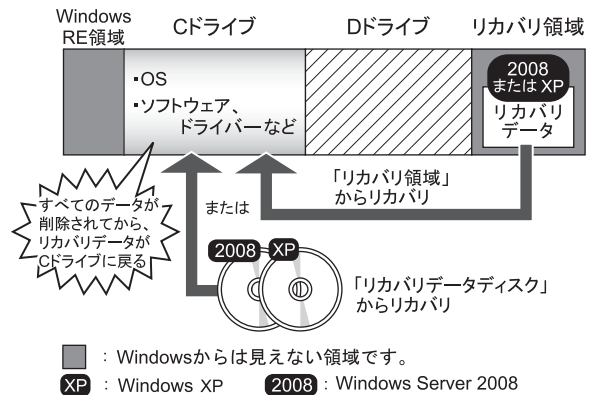
## リカバリの考え方

リカバリとは、CドライブのOS、ドライバーなどのプレインストールソフトウェアをご購入時の状態に戻す操作です。  
ハードディスクの領域は現在お使いの状態のまま、「リカバリ領域」または「リカバリデータディスク」のリカバリデータを使って、Cドライブのみご購入時の状態に戻します。Cドライブ以外のデータは変更されません。

### ■Windows 7 の場合



### ■Windows XP/Windows Server 2008 の場合



## 注意事項

- トラブル解決ナビの「領域設定」以外でドライブ構成を変更している場合は、リカバリを実行できません。  
また、ダイナミックディスクや拡張パーティションなどを作成した場合もリカバリを実行できません。  
その場合は、ハードディスクをご購入時の状態に戻してください。詳しくは、「ハードディスクをご購入時の状態に戻す」(→ P.18) をご覧ください。
- リカバリを行うと、Cドライブのすべてのデータが削除されます。必要に応じて事前にバックアップしてください。
- パソコン本体にUSBメモリ、外付けハードディスクなどの周辺機器を接続している場合は、必ず取り外してください。
- リカバリでは元に戻らないソフトウェアがあります。リカバリが終了してからインストールしてください。
- キーボードまたはマウスで操作してください。
- リカバリには時間がかかります。時間に余裕をもって、操作してください。

## リカバリ前の準備

リカバリを実行する前に、次の準備を行ってください。

### ■BIOS 設定をご購入時の状態に戻す

BIOS の設定をご購入時から変更している場合、ご購入時の状態に戻します。詳しくは、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。

### ■必要に応じてディスクを用意する

#### ●リカバリデータディスク

リカバリデータディスクからリカバリを行う場合に必要です。

## リカバリを実行する

### 重要

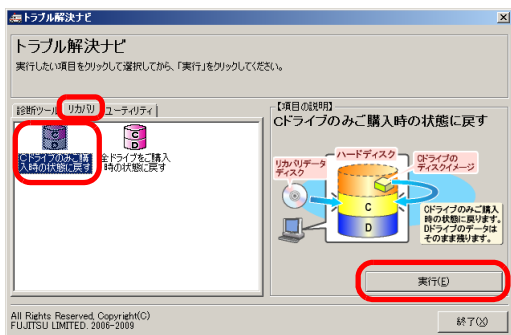
▶ C ドライブのすべてのデータが削除されます。あらかじめ、必要なデータをバックアップしてください。

- 1 本パソコンの電源を入れます。
- 2 「FUJITSU」のロゴが表示されている間に、【F12】キーを押します。  
起動メニューが表示されます。

### POINT

- ▶ 起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。
- ▶ 起動メニューが表示されず Windows が起動してしまった場合は、本パソコンの電源を切ってもう一度操作してください。  
「FUJITSU」ロゴが表示されない場合は、再起動後、起動メニューが表示されるまで【F12】キーを何度か押してください。

- 3 カーソルキーで「トラブル解決ナビ」を選択し、【Enter】キーを押します。  
そのまましばらくお待ちください。「トラブル解決ナビ」が表示されます。
- 4 「リカバリ」タブの「C ドライブのみご購入時の状態に戻す」を選択し、「実行」をクリックします。

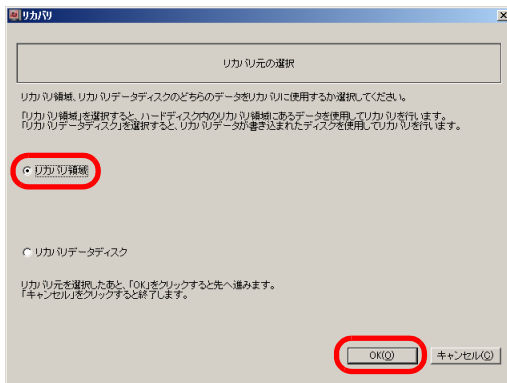


(画面は Windows 7 の例です)

「ご使用上の注意」が表示されます。

- 5 「ご使用上の注意」をよく読み、「同意する」をクリックし、「次へ」をクリックします。  
「リカバリ元の選択」画面が表示されます。

**6 「リカバリ領域」をクリックし、「OK」をクリックします。**



**POINT**

▶ リカバリデータディスクを使用する場合

「リカバリデータディスク」をクリックし、「OK」をクリックします。その後は、表示されるメッセージに従って操作してください。

「警告」画面が表示されます。

**7 「OK」をクリックします。**

「リカバリ」画面が表示され、リカバリが始まります。

リカバリが終了すると、「リカバリが正常に完了しました。」というメッセージが表示されます。

**POINT**

▶ リカバリデータディスクを使用した場合は、ディスクを取り出してください。

**8 「完了」をクリックします。**

本パソコンの電源が自動的に切れます。

**9 30 秒以上待つてから電源を入れます。**


**10 セットアップを行います。**

詳しくは、「セットアップ」(→ P.12) をご覧ください。

以上でリカバリは終了です。

# セットアップ

## 注意事項

- セットアップが完了（「必ず実行してください」を実行）するまでは、次のものを接続または変更しないでください。セットアップが正常に行われなかったり、エラーメッセージが表示されたりする場合があります。
  - ・ 周辺機器
  - ・ LAN ケーブル
  - ・ 拡張カード
  - ・ 2 台目のディスプレイ
  - ・ BIOS の設定
- セットアップ中は、電源を切らないでください。
- Windows セットアップの各ウィンドウが完全に表示されないうちにキーを押すと、Windows セットアップが完全に行われないうちに表示されたり、エラーメッセージが表示されたりする場合があります。ウィンドウが完全に表示された後から、キーボードまたはマウスで操作してください。
- Windows セットアップが進められなくなった場合は、電源スイッチを「」側に切り替えて、本パソコンの電源を一度切り、セットアップをやり直してください。セットアップがやり直せない場合は、リカバリを行ってください。リカバリについては、「リカバリ」(→ P.9) をご覧ください。
- Windows セットアップの途中で、「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示された場合は、お使いのディスプレイに合わせたドライバーをインストールしてください。
- マルチディスプレイ機能を使用する場合は、セットアップを行い、ディスプレイドライバーをインストールした後に、2 台目のディスプレイを接続してください。  
マルチディスプレイ機能については、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。

### ■ 次の手順に従ってセットアップする

「セットアップする (Windows 7 の場合)」(→ P.12) に進んでください。

「セットアップする (Windows XP の場合)」(→ P.13) に進んでください。

「セットアップする (Windows Server 2008 の場合)」(→ P.14) に進んでください。

## セットアップする (Windows 7 の場合)

### 1 本パソコンの電源を入れます。

画面に「FUJITSU」ロゴが表示され、自己診断 (POST) が始まります。

OS によっては、画面が表示されるまで、一時的に画面が真っ暗な状態になったり、画面に変化がなかったりすることがありますが、故障ではありません。絶対に電源を切らずにそのままお待ちください。

自己診断 (POST) が終わると「Windows のセットアップ」画面が表示されます。

### 2 メッセージに従って操作します。

途中に、ユーザー名、パスワード、およびコンピューター名を入力する画面が表示されます。

入力可能な文字と文字数は、次のとおりです。

- ・ ユーザー名：12 文字以内の半角英数字 (a～z、A～Z、0～9)。数字は、英字と組み合わせて使用します。
- ・ パスワード：半角英数字 (a～z、A～Z、0～9)。大文字、小文字は区別されます。
- ・ コンピューター名：ここでは変更せず、セットアップの終了後に変更してください。

Windows セットアップが完了すると、「必ず実行してください」ウィンドウが表示されます。

### 3 「必ず実行してください」ウィンドウの内容を確認し、「実行する」をクリックします。

- 4** 「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。  
最終設定が行われ、再起動メッセージが表示されます。  
再起動メッセージが表示されるまで、キーボードやマウスを操作しないでください。
- 5** 「OK」をクリックします。  
本パソコンが再起動し、パスワードの入力画面が表示されます。
- 6** 設定したパスワードを入力し、「→」をクリックします。  
Windows が起動します。

これで、セットアップが完了しました。

この後は、『取扱説明書』をご覧になり、セットアップの後に必要な操作を行ってください。

## セットアップする (Windows XP の場合)

---

- 1** 本パソコンの電源を入れます。  
画面に「FUJITSU」ロゴが表示され、自己診断 (POST) が始まります。  
自己診断 (POST) が終わると「Microsoft Windows へようこそ」画面が表示されます。
- 2** 「Microsoft にユーザー登録する準備はできましたか？」と表示されるまで、メッセージに従って操作します。  
途中に、コンピュータの名前、コンピュータの説明、およびパスワードを入力する画面が表示されます。
  - ・ コンピュータの名前：セットアップの終了後に設定することもできます。
  - ・ コンピュータの説明：省略できます。セットアップの終了後に設定することもできます。
  - ・ パスワード：大文字と小文字は区別されます。
- 3** 「Microsoft にユーザー登録する準備はできましたか？」の画面で、「いいえ、今回はユーザー登録しません」をクリックし、「次へ」をクリックします。
- 4** 「完了」をクリックします。  
本パソコンが再起動し、パスワードの入力画面が表示されます。
- 5** 設定したパスワードを入力し、「→」をクリックします。
- 6** デスクトップの「必ず実行してください」アイコンをダブルクリックします。
- 7** 「実行する」をクリックします。
- 8** 「OK」をクリックします。  
本パソコンが再起動し、パスワードの入力画面が表示されます。
- 9** 設定したパスワードを入力し、「→」をクリックします。  
Windows が起動します。

これで、セットアップが完了しました。

この後は、『取扱説明書』をご覧になり、セットアップの後に必要な操作を行ってください。

## セットアップする (Windows Server 2008 の場合)

---

### 1 本パソコンの電源を入れます。

画面に「FUJITSU」ロゴが表示され、自己診断 (POST) が始まります。

画面が表示されるまで、再起動したり、一時的に画面が真っ暗な状態や、画面に変化がなかったりすることがありますが、故障ではありません。絶対に電源を切らずにそのままお待ちください。

自己診断 (POST) が終わると「Windows のセットアップ」画面が表示されます。

### 2 メッセージに従って操作します。

途中、「国または地域」「時刻と通貨の形式」「キーボードレイアウト」「コンピュータ名」など入力します。

コンピューター名は、次の条件を満たすように設定してください。

- ・ 英数字 15 文字以下、日本語 7 文字以下をお勧めします (英数字 最大 63 文字、日本語 最大 31 文字)。
- ・ 数字のみ、スペースや特殊文字 ( \ [ ; | < > " ' + = , ? ) を使用したもの、「Administrator」や「guest」または使用するユーザー名と同じものは設定しないでください。

「ユーザーは最初にログオンする前にパスワードを変更しなければなりません」と表示されます。

### 3 パスワードを変更します。

パスワードの条件は、次のとおりです。

- ・ 文字数は 6 文字以上にしてください。
- ・ 次の 4 つのカテゴリのうち 3 つのカテゴリから文字を組み合わせてください。
  - 英大文字 (A ~ Z)
  - 英小文字 (a ~ z)
  - 10 進数の数字 (0 ~ 9)
  - アルファベット以外の文字 (!, \$, #, % など)

ユーザーのアカウント名やフルネーム、「Administrator」など、容易に想像できるようなパスワードは使用しないでください。

パスワードは変更されましたと表示されます。

### 4 「OK」をクリックします。

これで、セットアップが完了しました。

この後は、『取扱説明書』をご覧になり、セットアップの後に必要な操作を行ってください。

## 2. 補足情報

### 領域設定の変更

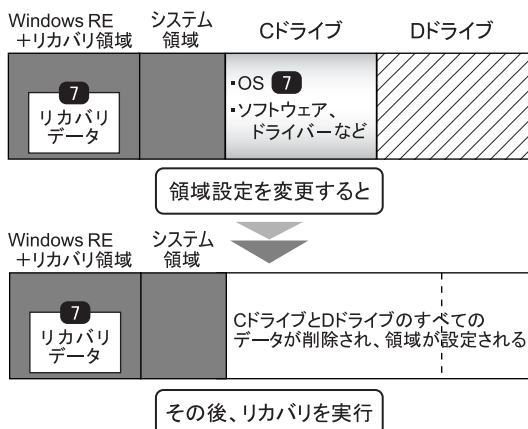
ハードディスクの C ドライブと D ドライブの領域を変更したり、1 区画にしたりできます。

#### 注意事項

- 領域設定の変更を行うと、C ドライブと D ドライブのすべてのデータが削除されます。あらかじめ、必要なデータをバックアップしてください。  
「Windows RE + リカバリ領域」、「システム領域」、「Windows RE 領域」、「リカバリ領域」のデータは削除されません。
- トラブル解決ナビの「領域設定」以外でドライブ構成を変更している場合は、領域設定を変更できません。  
また、ダイナミックディスクや拡張パーティションなどを作成した場合も領域設定を変更できません。  
その場合は、ハードディスクをご購入時の状態に戻してください。詳しくは、「ハードディスクをご購入時の状態に戻す」(→ P.18) をご覧ください。
- トラブル解決ナビの「領域設定」以外で、ドライブ構成を変更する場合、「Windows RE 領域」は削除しないでください。
- パソコン本体に USB メモリ、外付けハードディスクなどの周辺機器を接続している場合は、必ず取り外してください。
- キーボードまたはマウスで操作してください。

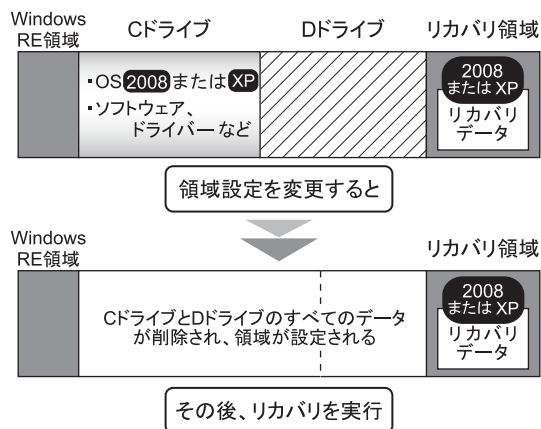
#### 領域設定の考え方

##### ■ Windows 7 の場合



- : Windows からは見えない領域です。
- 7 : Windows 7

##### ■ Windows XP/Windows Server 2008 の場合



- : Windows からは見えない領域です。
- XP : Windows XP   2008 : Windows Server 2008

## 領域設定を変更する前の準備

領域設定を変更する前に、次の準備を行ってください。

### ■BIOS 設定を購入時の状態に戻す

BIOS の設定をご購入時から変更している場合、ご購入時の状態に戻します。詳しくは、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。

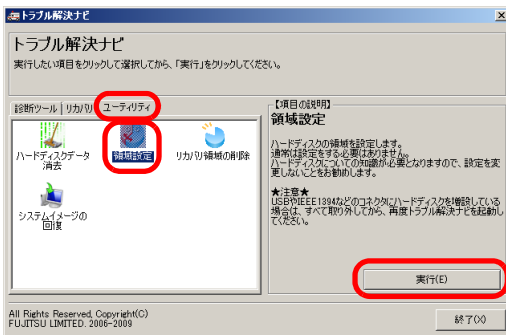
## 領域設定を変更する

- 1 本パソコンの電源を入れます。
- 2 「FUJITSU」のロゴが表示されている間に、【F12】キーを押します。  
起動メニューが表示されます。

### POINT

- ▶起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。
- ▶起動メニューが表示されず Windows が起動してしまった場合は、本パソコンの電源を切ってもう一度操作してください。  
「FUJITSU」ロゴが表示されない場合は、再起動後、起動メニューが表示されるまで【F12】キーを何度か押してください。

- 3 カーソルキーで「トラブル解決ナビ」を選択し、【Enter】キーを押します。  
そのまましばらくお待ちください。「トラブル解決ナビ」が表示されます。
- 4 「ユーティリティ」タブの「領域設定」を選択し、「実行」をクリックします。



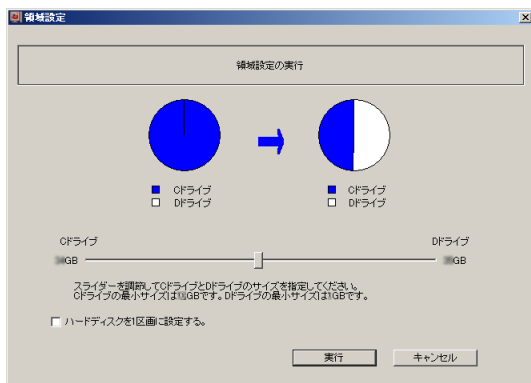
(画面は Windows 7 の例です)

「ご使用上の注意」が表示されます。

- 5 「ご使用上の注意」をよく読み、「同意する」をクリックし、「次へ」をクリックします。  
「領域設定の実行」画面が表示されます。



## 6 領域を設定します。



### ■ CドライブとDドライブ（2区画）を作成する場合

スライダーを左右にドラッグしてCドライブとDドライブの容量を指定します。容量は1GB単位で設定できます。

### ■ Cドライブのみ（1区画）を作成する場合

「ハードディスクを1区画に設定する。」にチェックを付けます。

## 7 「実行」をクリックします。

確認画面が表示されます。

### 重要

▶ 領域設定を変更してなくても、「実行」をクリックするとCドライブとDドライブのすべてのデータが削除されます。

## 8 「はい」をクリックします。

領域の設定が始まります。

領域の設定が完了すると、「領域設定の完了」画面が表示されます。

## 9 「完了」をクリックします。

「トラブル解決ナビ」が表示されます。

以上で領域設定の変更は終了です。この後リカバリを行う場合は、「リカバリ」(→ P.9) をご覧ください。

# ハードディスクをご購入時の状態に戻す

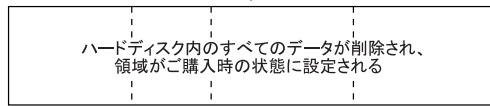
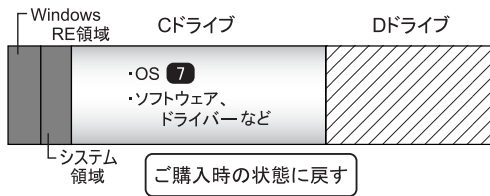
リカバリ領域を消してしまった場合などに、ディスクを使ってハードディスクをご購入時の状態に戻すことができます。

## 注意事項

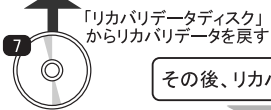
- ハードディスクをご購入時の状態に戻すと、ハードディスクのすべてのデータが削除されます。必要に応じて事前にバックアップしてください。
- パソコン本体にUSBメモリ、外付けハードディスクなどの周辺機器を接続している場合は、必ず取り外してください。
- ハードディスクをご購入時の状態に戻すを実行しても、元に戻らないソフトウェアがあります。ハードディスクをご購入時の状態に戻した後、インストールしてください。
- キーボードまたはマウスで操作してください。
- ハードディスクをご購入時の状態に戻すには時間がかかります。時間に余裕をもって、操作してください。

## ハードディスクをご購入時に戻すの考え方

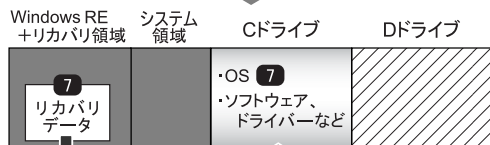
### ■Windows 7 の場合



「Windows RE+リカバリ領域」にリカバリデータを戻す



その後、リカバリを実行

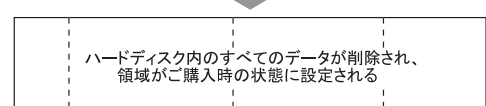
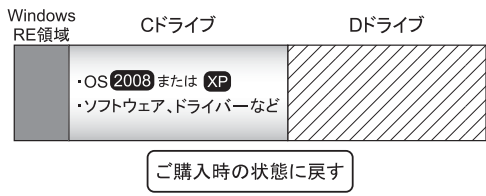


「Windows RE+リカバリ領域」からリカバリ

■ : Windowsからは見えない領域です。

7 : Windows 7

### ■Windows XP/Windows Server 2008 の場合



「リカバリ領域」にリカバリデータを戻す



「リカバリデータディスク」からリカバリデータを戻す

その後、リカバリを実行



「リカバリ領域」からリカバリを実行

■ : Windowsからは見えない領域です。

XP : Windows XP

2008 : Windows Server 2008

## ハードディスクをご購入時の状態に戻す前の準備

---

ハードディスクをご購入時の状態に戻す前に、次の準備を行ってください。

### ■BIOS 設定をご購入時の状態に戻す

BIOS の設定をご購入時から変更している場合、ご購入時の状態に戻します。詳しくは、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。

### ■ディスクを用意する

- トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]
- リカバリデータディスク

## ハードディスクをご購入時の状態に戻す

---

### 重要

▶ ハードディスク内のすべてのデータが削除されます。あらかじめ、必要なデータをバックアップしてください。

- 1 本パソコンの電源を入れます。
- 2 「FUJITSU」のロゴが表示されている間に、【F12】キーを押します。  
起動メニューが表示されます。

### POINT

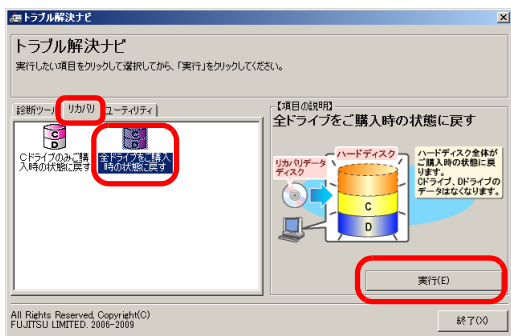
- ▶ 起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。
- ▶ 起動メニューが表示されず Windows が起動してしまった場合は、本パソコンの電源を切ってもう一度操作してください。  
「FUJITSU」ロゴが表示されない場合は、再起動後、起動メニューが表示されるまで【F12】キーを何度か押してください。

- 3 「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]」をセットします。
- 4 データの読み出しが終了し光学ドライブが停止してから、カーソルキーでディスクをセットした光学ドライブを選択し、【Enter】キーを押します。  
そのまましばらくお待ちください。「トラブル解決ナビ」が表示されます。

### POINT

▶ 「トラブル解決ナビ」が表示されるまでの間、一時的に画面が真っ暗な状態になったり、画面に変化がなかったりすることがありますが、故障ではありません。電源を切らずにそのままお待ちください。

5 「リカバリ」タブの「全ドライブをご購入時の状態に戻す」を選択し、「実行」をクリックします。



(画面は Windows 7 の例です)

「ご使用上の注意」が表示されます。

6 「ご使用上の注意」をよく読み、「同意する」をクリックし、「次へ」をクリックします。

7 画面のメッセージに従って操作します。

この後は、

1. ディスクの確認
2. ハードディスクの領域を設定する
3. リカバリ領域にリカバリデータを復元する
4. リカバリを実行する

の順に進めます。画面のメッセージで指定されたディスクをセットして、操作を進めてください。

「リカバリが正常に完了しました。」というメッセージが表示されたら手順 8 に進んでください。

8 ディスクを取り出し、「完了」をクリックします。

本パソコンの電源が自動的に切れます。

9 30 秒以上待ってから電源を入れます。

10 セットアップを行います。

詳しくは、「セットアップ」(→ P.12)をご覧ください。

以上でハードディスクをご購入時に戻す操作は終了です。

# リカバリ領域の削除 (Windows 7 の場合)

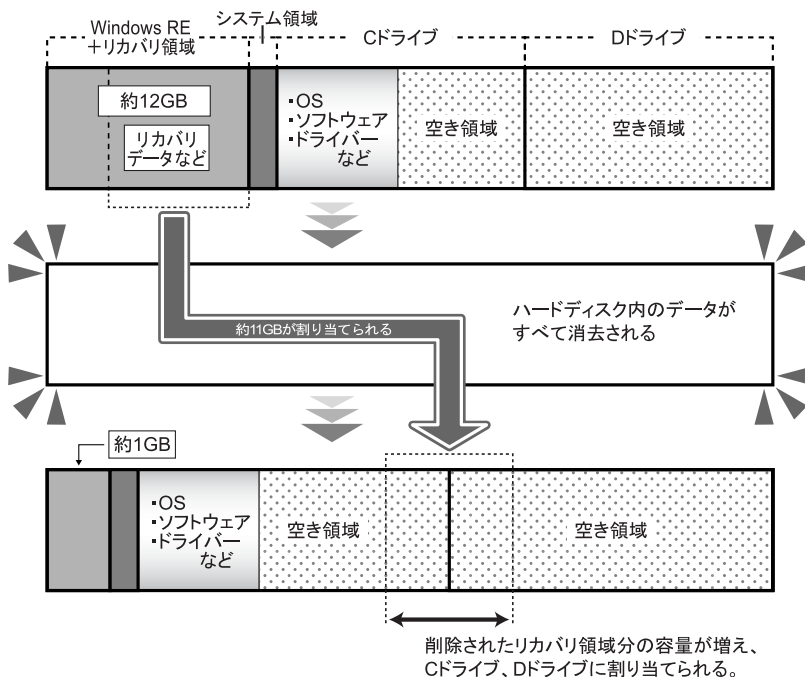
## 注意事項

- リカバリ領域を削除すると、リカバリ領域のほかに、領域設定を変更し直すため C ドライブと D ドライブのすべてのデータが削除されます。必要に応じて事前にバックアップしてください。
- リカバリ領域を削除すると、リカバリ領域に格納されているデータが消えてしまいます。リカバリ領域を削除する前に、必ずリカバリ領域にあるデータから次のディスクを作成してください。
  - ・トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]
  - ・Windows 7 のリカバリデータディスクディスクの作成方法については、「ディスク作成 (Windows 7/Windows XP の場合)」(→ P.6) をご覧ください。
- パソコン本体に USB メモリ、外付けハードディスクなどの周辺機器を接続している場合は、必ず取り外してください。
- リカバリ領域を削除しリカバリを実行しても、元に戻らないソフトウェアがあります。リカバリを実行した後、インストールしてください。
- キーボードまたはマウスで操作してください。
- リカバリ領域を削除するには時間がかかります。時間に余裕をもって、操作してください。

## リカバリ領域の削除の考え方

リカバリ領域を削除することで、C ドライブ、D ドライブの容量を増やすことができます。

「Windows RE + リカバリ領域」内にあるリカバリ領域部分 (約 11GB) が、C ドライブ、D ドライブに割り当てられます。



## リカバリ領域を削除する前の準備

---

リカバリ領域を削除する前に、次の準備を行ってください。

### ■BIOS 設定をご購入時の状態に戻す

BIOS の設定をご購入時から変更している場合、ご購入時の状態に戻します。詳しくは、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。

### ■ディスクを用意する

- トラブル解決ナビ & ドライバースディスク [リカバリ起動ディスク]
- Windows 7 のリカバリデータディスク

#### 重要

- ▶ お手元に上記のディスクがない場合には、リカバリ領域を削除する前に、必ずディスクを作成してください。作成方法については「ディスク作成 (Windows 7/Windows XP の場合)」(→ P.6) をご覧ください。

## リカバリ領域を削除する

---

#### 重要

- ▶ リカバリ領域を削除すると、ハードディスクのすべてのデータが削除されます。必要に応じて事前にバックアップしてください。

1 本パソコンの電源を入れます。

2 「FUJITSU」のロゴが表示されている間に、【F12】キーを押します。  
起動メニューが表示されます。

#### POINT

- ▶ 起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。
- ▶ 起動メニューが表示されず Windows が起動してしまった場合は、本パソコンの電源を切ってもう一度操作してください。「FUJITSU」ロゴが表示されない場合は、再起動後、起動メニューが表示されるまで【F12】キーを何度か押してください。

3 「トラブル解決ナビ & ドライバースディスク [リカバリ起動ディスク]」をセットします。

4 データの読み出しが終了し光学ドライブが停止してから、カーソルキーでディスクをセットした光学ドライブを選択し、【Enter】キーを押します。  
そのまましばらくお待ちください。「トラブル解決ナビ」が表示されます。

#### POINT

- ▶ 「トラブル解決ナビ」が表示されるまでの間、一時的に画面が真っ暗な状態になったり、画面に変化がなかったりすることがありますが、故障ではありません。電源を切らずにそのままお待ちください。

5 「ユーティリティ」タブの「リカバリ領域の削除」を選択し、「実行」をクリックします。  
「ご使用上の注意」が表示されます。

6 「ご使用上の注意」をよく読み、「同意する」をクリックし、「次へ」をクリックします。

**7** 画面のメッセージに従って操作します。

この後は、

1. ディスクの確認
2. ハードディスクの領域を設定する
3. リカバリを実行する

の順に進めます。画面のメッセージで指定されたディスクをセットして、操作を進めてください。  
「リカバリが正常に完了しました。」というメッセージが表示されたら手順 8 に進んでください。

**8** ディスクを取り出し、「完了」をクリックします。

本パソコンの電源が自動的に切れます。

**9** 30 秒以上待ってから電源を入れます。

**10** セットアップを行います。

詳しくは、「セットアップ」(→ P.12) をご覧ください。

**11** 「スタート」ボタン→「コンピューター」の順にクリックし、C ドライブ、D ドライブの容量が増えていることを確認します。

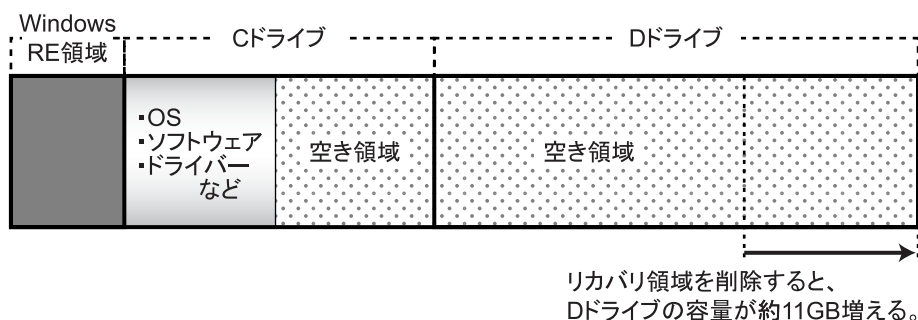
# リカバリ領域の削除 (Windows XP/Windows Server 2008 の場合)

## 注意事項

- リカバリ領域を削除すると、リカバリ領域に格納されているすべてのデータが消えてしまいます。お手元にディスクがない場合は、リカバリ領域を削除する前に、必ずリカバリ領域にあるデータから次のディスクを作成してください。
  - ・ トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]
  - ・ Windows XP のリカバリデータディスクディスクの作成方法については、「ディスク作成 (Windows 7/Windows XP の場合)」(→ P.6) をご覧ください。Windows Server 2008 の場合は、ディスク作成はできませんので、添付のリカバリディスクをご確認ください。
- パソコン本体に USB メモリ、外付けハードディスクなどの周辺機器を接続している場合は、必ず取り外してください。
- キーボードまたはマウスで操作してください。

## リカバリ領域の削除の考え方

リカバリ領域を削除することで、D ドライブの容量を増やすことができます。  
リカバリ領域の削除はリカバリ領域のデータのみ削除するため、C ドライブ、D ドライブのデータは残ります。



### 重要

- ▶ 「Windows RE 領域」は削除しないでください。

## リカバリ領域を削除する前の準備

リカバリ領域を削除する前に、次の準備を行ってください。

### ■ ディスクを用意する

- トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]

### 重要

- ▶ お手元に上記のディスクがない場合には、リカバリ領域を削除する前に、必ずディスクを作成してください。作成方法については「ディスク作成 (Windows 7/Windows XP の場合)」(→ P.6) をご覧ください。



## リカバリ領域を削除する

---

- 1 本パソコンの電源を入れます。
- 2 「FUJITSU」のロゴが表示されている間に、【F12】キーを押します。  
起動メニューが表示されます。

### POINT

- ▶ 起動時のパスワードを設定している場合は、パスワードを入力してください。
- ▶ 起動メニューが表示されず Windows が起動してしまった場合は、本パソコンの電源を切ってもう一度操作してください。  
「FUJITSU」ロゴが表示されない場合は、再起動後、起動メニューが表示されるまで【F12】キーを何度か押してください。

- 3 「トラブル解決ナビ & ドライバースディスク [リカバリ起動ディスク]」をセットします。
- 4 データの読み出しが終了し、光学ドライブが停止してから、カーソルキーでディスクをセットした光学ドライブを選択し、【Enter】キーを押します。  
そのまましばらくお待ちください。「トラブル解決ナビ」が表示されます。

### POINT

- ▶ 「トラブル解決ナビ」が表示されるまでの間、一時的に画面が真っ暗な状態になったり、画面に変化がなかったりすることがありますが、故障ではありません。電源を切らずにそのままお待ちください。

- 5 「ユーティリティ」タブの「リカバリ領域の削除」を選択し、「実行」をクリックします。  
「ご使用上の注意」が表示されます。
- 6 「ご使用上の注意」をよく読み、「同意する」をクリックし、「次へ」をクリックします。  
「削除の確認」が表示されます。
- 7 「OK」をクリックします。  
リカバリ領域が削除され、「削除の完了」と表示されます。
- 8 「完了」をクリックします。  
以上の手順で、リカバリ領域が削除されました。
- 9 「終了」をクリックします。
- 10 ディスクを取り出し「再起動」をクリックします。
- 11 「スタート」ボタン→「コンピュータ」の順にクリックし、Dドライブの容量が増えていることを確認します。

---

ESPRIMO  
N5280FA

リカバリガイド  
B6FJ-6961-02 Z0-00

発行日 2012年10月  
発行責任 富士通株式会社

- 
- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
  - このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
  - 無断転載を禁じます。